



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月7日
上場取引所 東

上場会社名 あすか製薬ホールディングス株式会社
 コード番号 4886 URL <https://www.aska-pharma-hd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 隆
 問合せ先責任者 (役職名) グループ経営企画部長 (氏名) 小林 秀昭 TEL 03-5484-8366
 四半期報告書提出予定日 2022年11月10日 配当支払開始予定日 2022年11月30日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	30,172	6.0	2,879	8.3	2,987	8.9	2,346	—
2022年3月期第2四半期	28,477	—	2,657	—	2,743	—	△2,796	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 3,251百万円 (—%) 2022年3月期第2四半期 △2,559百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	83.18	—
2022年3月期第2四半期	△98.52	—

(注) 当社は2021年4月1日に単独株式移転により設立されたため、2022年3月期第2四半期対前年同四半期増減率はありません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	86,227	52,002	60.3
2022年3月期	83,297	48,892	58.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 52,002百万円 2022年3月期 48,892百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	7.00	—	8.00	15.00
2023年3月期	—	8.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	8.00	16.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注) 2. 2022年3月期第2四半期末の配当原資は、その他資本剰余金であります。

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,000	6.0	5,200	8.4	5,300	8.6	4,200	△2.1	148.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2022年11月7日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 -社（社名）-、除外 -社（社名）-

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	30,563,199株	2022年3月期	30,563,199株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	2,302,861株	2022年3月期	2,379,856株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	28,210,040株	2022年3月期2Q	28,389,313株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 当社は2022年11月11日に機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する資料につきましては、決算説明会開始までに当社ホームページ (<https://www.aska-pharma-hd.co.jp>)に掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 研究開発活動に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10
(1) 事業会社の主力品の売上高	10
(2) 臨床開発状況	11
(3) [連結]設備投資、減価償却費、研究開発費	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和により社会・経済活動は緩やかに正常化へと向かう一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、急激な円安の進行やエネルギー、原材料価格の上昇に伴うコスト増加要因が経済に与える影響により、先行きは依然として不透明な情勢のまま推移しておりますが、このような状況下においても、当社グループの事業は前年度に引き続き、堅調に推移しております。

当第2四半期連結累計期間における当社経営成績は以下のとおりであります。

	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	28,477	30,172	1,694	6.0%
営業利益	2,657	2,879	221	8.3%
経常利益	2,743	2,987	244	8.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益（△は損失）	△2,796	2,346	5,143	—

セグメント業績は次のとおりであります。

① 医薬品事業

内科、産婦人科、泌尿器科の3分野に注力している医薬品事業は薬価改定の影響を受けつつも全般的に堅調に推移しました。製品別にみると、産婦人科領域において子宮筋腫・子宮内膜症治療剤「レルミナ」が4,524百万円（前年同期比22.2%増）と前年に引き続き大きく増加したほか、月経困難症治療剤「フリウエル」が1,765百万円（同5.9%増）と順調に伸長しました。また本年6月から販売を開始した月経困難症治療剤「ドロエチ」は1,279百万円となり売上を牽引しました。さらに内科領域の主力品である甲状腺ホルモン製剤「チラーゼン」が3,921百万円（同3.5%増）、難吸収性リファマイシン系抗菌薬「リフキシマ」も2,757百万円（同11.9%増）と着実に伸長しました。泌尿器科領域ではLH-RH誘導体マイクロカプセル型徐放性製剤「リユープロレリン」が2,619百万円（同3.9%増）となりました。

以上の結果、売上高は26,851百万円（同4.8%増）、セグメント利益は3,141百万円（同12.3%増）となりました。

② アニマルヘルス事業

動物用医薬品、飼料添加物等の製品を販売しているアニマルヘルス事業においては、飼料添加物の売上が堅調であったこと等から、売上高は3,234百万円（前年同期比15.9%増）、セグメント利益は231百万円（同1.0%増）となりました。

③ その他事業

臨床検査、医療機器、サプリメント等の各事業を展開しているその他事業については、前年度に発売した毛髪ホルモン量測定キットの売上寄与もありましたが、セグメントの売上高は86百万円（前年同期比29.7%増）、セグメント損失は20百万円（前年同期は26百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,929百万円増加し、86,227百万円となりました。これは主に、有価証券および無形固定資産が減少しましたが、現金及び預金、受取手形、売掛金及び契約資産および原材料及び貯蔵品などが増加したためであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ180百万円減少し、34,224百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金および流動負債のその他が増加しましたが、電子記録債務が減少したためであります。なお、短期借入金および長期借入金の合計は返済により減少しております。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3,109百万円増加し、52,002百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加および株価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

その結果、自己資本比率は前連結会計年度末から1.6ポイント上昇し60.3%となっております。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ121百万円増加し、17,224百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動におけるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、1,666百万円（前年同期は1,417百万円の増加）となりました。これは主に、売上債権の増加および棚卸資産の増加はありましたが、税金等調整前四半期純利益および減価償却費の計上によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は、199百万円（前年同期は427百万円の減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、1,346百万円（前年同期は1,386百万円の減少）となりました。これは主に、長期借入金の返済によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、第2四半期連結累計期間における業績の進捗状況を踏まえ、2022年5月12日に公表した通期連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては本日（2022年11月7日）に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

（4）研究開発活動に関する説明

当第2四半期連結累計期間における研究開発費総額は、1,768百万円であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,103	17,224
受取手形、売掛金及び契約資産	14,482	16,357
有価証券	5,000	—
商品及び製品	10,016	9,865
仕掛品	457	512
原材料及び貯蔵品	4,587	5,779
その他	2,911	3,112
貸倒引当金	△0	—
流動資産合計	49,557	52,852
固定資産		
有形固定資産	10,936	10,798
無形固定資産	6,183	5,192
投資その他の資産		
投資有価証券	12,223	13,274
その他	4,414	4,126
貸倒引当金	△17	△17
投資その他の資産合計	16,620	17,383
固定資産合計	33,739	33,374
資産合計	83,297	86,227
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,118	4,299
電子記録債務	3,723	2,514
短期借入金	1,723	2,848
賞与引当金	1,160	1,103
その他の引当金	28	—
その他	6,257	7,228
流動負債合計	16,011	17,995
固定負債		
長期借入金	12,323	10,049
退職給付に係る負債	5,730	5,849
その他	338	330
固定負債合計	18,393	16,229
負債合計	34,404	34,224
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	1,867	1,847
利益剰余金	45,833	47,954
自己株式	△3,479	△3,375
株主資本合計	45,419	47,624
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,231	3,739
為替換算調整勘定	164	547
退職給付に係る調整累計額	77	91
その他の包括利益累計額合計	3,473	4,378
純資産合計	48,892	52,002
負債純資産合計	83,297	86,227

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	28,477	30,172
売上原価	15,051	15,870
売上総利益	13,426	14,301
販売費及び一般管理費	10,768	11,422
営業利益	2,657	2,879
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	137	185
持分法による投資利益	51	—
その他	65	51
営業外収益合計	254	236
営業外費用		
支払利息	29	25
休止固定資産費用	108	27
その他	30	75
営業外費用合計	168	128
経常利益	2,743	2,987
特別利益		
投資有価証券売却益	—	32
特別利益合計	—	32
特別損失		
減損損失	5,921	—
その他	961	—
特別損失合計	6,882	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△4,139	3,019
法人税、住民税及び事業税	117	693
法人税等調整額	△1,460	△19
法人税等合計	△1,342	673
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,796	2,346
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,796	2,346

（四半期連結包括利益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△2,796	2,346
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	162	519
退職給付に係る調整額	15	13
持分法適用会社に対する持分相当額	59	371
その他の包括利益合計	237	905
四半期包括利益	△2,559	3,251
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,559	3,251

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△4,139	3,019
減価償却費	1,346	1,527
減損損失	5,921	—
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	221	132
受取利息及び受取配当金	△137	△185
支払利息	29	25
持分法による投資損益（△は益）	△51	21
投資有価証券売却損益（△は益）	—	△32
売上債権の増減額（△は増加）	△1,697	△1,876
棚卸資産の増減額（△は増加）	730	△1,096
仕入債務の増減額（△は減少）	△254	△27
その他	234	397
小計	2,203	1,907
利息及び配当金の受取額	137	184
利息の支払額	△30	△26
法人税等の支払額	△894	△398
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,417	1,666
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△262	△292
無形固定資産の取得による支出	△133	△21
投資有価証券の売却による収入	—	56
関係会社株式の取得による支出	△53	—
その他	22	58
投資活動によるキャッシュ・フロー	△427	△199
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△30	—
長期借入金の返済による支出	△1,149	△1,149
自己株式の増減額（△は増加）	△7	29
配当金の支払額	△199	△225
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,386	△1,346
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△396	121
現金及び現金同等物の期首残高	10,514	17,103
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,117	17,224

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自2021年4月1日至2021年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医薬品事業	アニマル ヘルス事業				
売上高						
外部顧客への売上高	25,619	2,791	66	28,477	—	28,477
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	26	26	△26	—
計	25,619	2,791	93	28,504	△26	28,477
セグメント利益又は 損失(△)	2,797	229	△26	3,000	△342	2,657

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、臨床検査および医療機器等の事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△342百万円は、各事業セグメントに配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「医薬品事業」セグメントにおいて、無形固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、前第2四半期連結会計期間においては5,921百万円であります。

II 当第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医薬品事業	アニマル ヘルス事業				
売上高						
外部顧客への売上高	26,851	3,234	86	30,172	—	30,172
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	28	28	△28	—
計	26,851	3,234	114	30,200	△28	30,172
セグメント利益又は 損失(△)	3,141	231	△20	3,352	△473	2,879

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、臨床検査および医療機器等の事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△473百万円は、各事業セグメントに配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含めていた「アニマルヘルス事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

3. 補足情報

(1) 事業会社の主力品の売上高

主 力 品 の 売 上 高
(2 0 2 3 年 3 月 期 第 2 四 半 期 実 績)

あすか製薬株式会社

(単位:百万円)

品 目 名		前 期 2022年3月期		当 期 2023年3月期		対前年同四半期 増減率 (%)
		第2四半期 実績	年間実績	第2四半期 実績	年間見込	
高血圧症治療剤	カンデサルタン※	6,259	12,394	5,477	10,697	△ 12.5
子宮筋腫・内膜症治療剤	レルミナ	3,703	7,334	4,524	9,671	22.2
甲状腺ホルモン剤	チラーヂン	3,790	7,499	3,921	7,706	3.5
難吸収性リファマイシン系抗菌薬	リフキシマ	2,464	4,854	2,757	5,500	11.9
LH-RH誘導体 マイクロカプセル型徐放性製剤	リュープロレリン	2,520	5,183	2,619	5,018	3.9
月経困難症治療剤	フリウエル	1,667	3,463	1,765	3,276	5.9
月経困難症治療剤	ドロエチ	—	—	1,279	3,023	—
抗甲状腺剤	メルカゾール	751	1,458	761	1,467	1.4
黄体ホルモン製剤	ルテウム	298	661	569	979	90.6
高血圧症治療剤	アムロジピン	555	1,073	465	937	△ 16.2

※ カンデサルタン配合剤を含む

あすかアニマルヘルス株式会社

(単位:百万円)

事 業 分 野 名	前 期 2022年3月期		当 期 2023年3月期		対前年同四半期 増減率 (%)
	第2四半期 実績	年間実績	第2四半期 実績	年間見込	
飼料添加物、混合飼料、飼料原料	1,689	3,508	2,062	3,855	22.0
畜産用医薬品	746	1,466	767	1,532	2.9

（2）臨床開発状況

臨床開発状況

（2022年11月現在）

2022年11月7日

あすか製薬株式会社

区 分	(開発番号)	一 般 名	領 域・効 能	備 考
PhaseⅢ	(LF111)	ドロスピレノン	避妊	Insud Pharma(スペイン)より導入
PhaseⅢ ※1	(TRM-270)	癒着防止材	術後の腹腔内臓 器癒着防止 (消化器科・産婦 人科)	東レ(株)との共同開発
PhaseⅡ/Ⅲ	(L-105)	リファキシミン	肝性脳症 (小児適応)	Alfasigma S.p.A.(イタリア)より導入
PhaseⅡ	(AKP-009)	ルダテロン酢酸エステル	前立腺肥大症	杏林製薬(株)との共同開発
PhaseⅠ	(L-105)	リファキシミン	クローン病	Alfasigma S.p.A.(イタリア)より導入

※1 前回からの変更点

TRM-270(癒着防止材)につきましては、PhaseⅢからの開始となりました。

（3）〔連結〕設備投資、減価償却費、研究開発費

1. 設備投資（有形固定資産及びソフトウェア）

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
第2四半期	401 百万円	438 百万円	399 百万円
通 期	765 百万円	657 百万円	(予) 1,276 百万円

2. 減価償却費

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
第2四半期	1,797 百万円	1,346 百万円	1,527 百万円
通 期	3,305 百万円	2,885 百万円	(予) 3,163 百万円

3. 研究開発費

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
第2四半期	2,338 百万円	1,941 百万円	1,768 百万円
通 期	4,709 百万円	3,598 百万円	(予) 4,134 百万円

※1 2021年3月期実績はあすか製薬株式会社として公表した数値であります。